

平成18年度(2006年)事業報告

(平成18年1月1日~平成18年12月31日)

1. 試合の管理運営に関して

(1)世界(16)、東洋太平洋(22)、日本(34)の別記タイトルマッチ及びその他合計303
興行(2,506試合)の試合管理を行う。〔別表1参照〕

(2)選手、マネージャー、他ボクシング従事者に対する資格審査並びにライセンスの
発給。

ライセンスの発行数 5,389 (内:外国人ボクサー263名)

(内訳)ボクサー(3,483)、プロモーター(98)、クラブオーナー(266)、マネージャー
(386)、トレーナー(520)、セコンド(372)、マッチメーカー(4)、レフェリー(122)、
タイムキーパー(12)、アナウンサー(10)、ドクター(111)、進行(5)。

(3)新人ボクサーテスト実施。

受験者総数:1,265名 合格者:620名(合格率49.0%)

【内訳】東京地区:受験者806名 合格者:365名(合格率45.3%)

他4地区:受験者465名 合格者:261名(合格率56.1%)

(4)日本ランキング決定、発表(月例)

(5)試合役員研修会(東京地区2月24日他原則毎月、他4地区は随時)

採点基準、レフェリング(反則処置)、事故防止他。

2. 安全防護に関して

(1)ボクシング医事講習会(=トレーナー講習会)(6月26日、於・後樂園展示会場)

〔講師〕谷 諭コミッション Dr.(東京慈恵会医科大学・脳神経外科助教授)

「眼窩底骨折について」

太木 孝太郎 Dr.(大木眼科院長)

「網膜剥離について」

大槻 穰治コミッション Dr.(東京慈恵会医科大学・救急医学講座助教授)

「リング事故ならびに各種統計について」

ボクシングにおける眼にまつわる負傷について、眼科専門医を招き、各負傷の構造・症状・治療方法等を詳しく講義し、放置による重症化の予防を喚起す。

(対象)出席者:トレーナー、マネージャー、審判他関係者71名。

(2)リング事故

(a)佐々木 巧選手(神拳阪神):6月25日 8R 判定負け、硬膜下血腫除去手術、

回復社会復帰。

- (b)指田竜一選手（マーベラス）：11月3日 6回戦で6R KO負けして硬膜下血腫除去手術、回復社会復帰。

3. 国際交流について

(1)国際会議開催

WBA（世界ボクシング協会）第85回年次総会
（9月24日～9月29日、東京ドームホテル）

協議事項：

- *ルール改正
- *アンチ・ドーピングテストの徹底
- *PABA会議
- *各種報告
- *ABCとの関係強化について
- *ランキング委員会
- *レフェリー・ジャッジ講習会
- *メディカルセミナー
- *2007年度第86回年次総会の開催地について（中国四川省成都）

(2)国際会議に代表派遣

(a)WBC（世界ボクシング評議会）第44回年次総会
（10月29日～11月4日、クロアチア・ドブロクニク）

協議事項

- *グリーンカード導入
- *事前計量・計量失格へ罰金を規則化
- *英国コミッション（BBBC）がWBCに再加盟
- *オープンスコアリング制を採用
- *AIBA（国際アマチュアボクシング協会）との連携強化
- *OPBF関連

（出席者）JBC関係：安河内事務局次長。

B・協会関係：本田明彦（帝拳）、ジョー小泉（リングジャパン）
鈴木正臣（角海老宝石）他。

(b)OPBF（東洋太平洋ボクシング連盟）45回年次総会
（10月30日、WBC 総会場所）

協議事項：

- *中国・北京がメンバーとして承認された。
- *2008年12月末まで会長国が持ち越された
（オーストラリア/フランク・クイル会長）
- *ルール改正

- (1) ランキングを現行の 1 0 位から 1 5 位まで拡大する。
- (2) 指名試合期限を 9 ヶ月から 1 年に延長する。
- (3) 空位の王座決定戦後の第一戦は選択試合可能とする。

(c) その他

- (イ) W B A、W B C、O P B F、並びに各国コミッション関係者との交流(役員来日時随時)
- (ロ) 海外でのタイトルマッチに役員派遣(内訳: W B C 10 名、W B A 5、O P B F 1 名)
〔別表 2 参照〕
- (ハ) 国際問題の処理について

(d) 海外遠征並びに来日選手の各種試合契約の承認について

4 . ボクシング功労者の表彰について

- a) 2 0 0 5 年度プロ・アマ年間優秀選手表彰式。
1 月 2 0 日東京ドームホテル。(2 0 0 5 年 1 2 月 1 6 日選考)。
プロの部 9 部門(1 0 名)。アマの部 6 部門(6 名)
- b) 2 0 0 6 年度プロ・アマ優秀選手選考(1 2 月 2 2 日)
プロの部 9 部門(9 名)。アマの部 5 部門(6 名)
- c) 世界王者獲得並びに各種チャンピオンの引退、他功労表彰について。
 - *W B C フェザー級チャンピオン越本隆志(F U K U O K A) 1 月 2 9 日王座獲得。
 - *W B A スーパー・フライ級チャンピオン名城信男(六島) 7 月 2 2 日王座獲得。
 - *W B A ライト・フライ級チャンピオン亀田興毅(協栄) 8 月 2 日王座獲得。
 - *W B A ミニマム級暫定チャンピオン高山勝成(グリーンツダ) 1 1 月 7 日王座獲得。
 - *元 W B C フェザー級チャンピオン越本隆志(F U K U O K A) 引退。
 - *元日本スーパー・フェザー級チャンピオンキンジ天野(国際) 引退。
 - *元日本スーパー・フェザー級チャンピオン杉田竜平(畑中) 引退。
 - *元東洋太平洋バンタム級チャンピオン鳥海純(ワタナベ) 引退。
 - *元東洋太平洋スーパー・バンタム級チャンピオン國見泰央(カシミ) 引退。
 - *元東洋太平洋・日本フライ級チャンピオン中野博(畑中) 引退。
- d) J B C 試合役員等功労表彰
 - *小島茂(前 J B C 事務局長)
 - *故小池幸雄(前 J B C 西部地区事務局長)
 - *安田裕侯(J B C 関西事務局長)
 - *吉田勇作(元 J B C 東京試合役員)
 - *島川威(J B C 東京試合役員)
 - *金谷武明(J B C 東京試合役員)

- *上中一郎（ＪＢＣ関西試合役員）
- *松本博（ＪＢＣ関西試合役員）
- *藤田輝雄（ＪＢＣ関西試合役員）
- *酒井忠康（元ＪＢＣ実行委員）

5．機関誌の発行について

- a)ボクシング広報（月刊）
- b)ボクシング年鑑編集協力

6．選手記録（戦績、診断の両記録カード）、ボクシングに関する資料の収集、作成並びに保存（継続）

7．その他

(1)（財）日本ボクシングコミッション 第29回定例理事会・実行委員会（5月12日、後楽園飯店）

- a) 2005年度事業報告、同収支決算報告承認。

b)役員改選

（退任）

理事：故田辺国男氏・鈴木敬氏

監事：伊藤八郎氏

実行委員：谷諭氏・阿部祐二氏・小池幸雄氏・角田吉夫氏・舟橋幸男氏
木村直樹氏・石井宏氏・酒井忠康氏

事務局長：小島茂氏（本部事務局）・舟橋幸男氏（中部事務局）

角田吉夫氏（関西事務局）・小池幸雄氏（西部事務局）

（新任）

理事：松本三郎氏（慶應義塾大学・防衛大学校名誉教授）

谷諭氏（慈恵医科大学・脳神経外科助教授）

森田健氏（元ＪＢＣ試合役員会会長）

監事：阿部睦治氏（税理士）

実行委員：安河内剛氏（ＪＢＣ本部事務局長）

小池幸弘氏（ＪＢＣ西部地区事務局長）

安田裕侯氏（ＪＢＣ関西地区事務局長）

近藤清氏（ＪＢＣ中部地区インスペクター）

福留崇広氏（報知新聞・記者幹事）

浦谷信彰氏（ＪＢＣ審判員）

事務局長：安河内剛氏（本部事務局・中部事務局長兼任）

安田裕侯氏（関西事務局）・小池幸弘氏（西部事務局）

(2)（財）日本ボクシングコミッション 理事会（12月22日、後楽園飯店）

a) 2006年度補正予算承認

b) 2007年度事業計画並びに同収支予算承認

(3)物故者

a) 山口勝治（JBC試合役員）2月7日死去(68歳)。

b) 柿沢新一（元東洋太平洋ライト級チャンピオン）6月8日死去(58歳)。

c) 上山英彦（柏ジム会長）8月23日死去(92歳)。

d) 小池幸雄（前JBC西部地区事務局長）12月3日死去(82歳)。

e) 柴田治郎（岡崎ジム会長）12月24日死去(89歳)

(4)紛争処理

(5)JBC/JPBA(ボクシング協会) 連絡会議。

1月24日 ・ 5月31日

(6)アマチュア関係者との協議。

年間優秀選手表彰選考。アマチュアとの交流について。

(7)処分

a)カサノフ・シュラト マネージャー（ロシア）に厳重注意処分（2月9日付）：セコンド中、水の中に異物（石のようなもの）を入れて使用した。

b)サーシャ・バクティン選手（協栄）のライセンス3ヶ月停止（2月26日付）：傷害容疑で逮捕・拘留（不起訴＝不処分）。

c)協栄ジムに戒告処分(2月26日付)：サーシャ・バクティン選手の監督責任。

d)岡野耕司会長（岡野ジム）の厳重戒告処分（4月20日付）：セコンド中アンモニア水を使用した。

e)日高和彦（新日本木村）の厳重戒告処分（7月4日付）：レフェリーの試合終了宣言後の対戦相手への加撃。

f)山本末広会長（中外ジム）のライセンス3ヶ月停止（9月9日付）：試合後、判定

を不服とし審判員、コミッション役員に対して暴言を吐き、退去せずリング上から氷をコミッション席に投げつけるなどの行為におよんだ。

- g) 亀田史郎セコンド(協栄)の嚴重注意処分(10月12日付):後樂園ホールにおける乱闘騒動の際、それに加担しようとしたと誤解される言動があった。
- h) 半田友章(宇都宮ジム)のライセンス3ヶ月停止(10月19日付):窃盗の疑いで逮捕(不起訴処分)。

〔別表1〕

(1) 世界タイトルマッチ(16)

- 1 W B C 世界ミニマム級 (1 月 9 日 パシフィコ横浜)
 イーグル京和 (角海老宝石) 中島健 (グリーンツダ)
- 2 W B C 世界フェザー級 (1 月 2 9 日 九電記念体育館)
 越本隆志 (F U K U O K A) 池 仁珍 (韓国)
- 3 W B C 世界スーパー・フライ級 (2 月 2 7 日 大阪市中央体育館)
 徳山昌守 (金沢) ホセ・ナバーロ (アメリカ)
- 4 W B A 世界ミニマム級 (3 月 4 日 後樂園ホール)
 新井田豊 (横浜光) ロナルド・バレラ (コロンビア)
- 5 W B C 世界バンタム級 (3 月 2 5 日 神戸ワールド記念ホール)
 長谷川 穂積 (千里馬神戸) ウィホ^ン・ナコル^ア^ン^グ^ン^グ^ン (タイ)
- 6 W B A 世界ミニマム級 (5 月 6 日 後樂園ホール)
 イーグル京和 (角海老宝石) ロデル・マヨール (三迫)
- 7 W B A 世界スーパー・フライ級 (7 月 2 2 日 東大阪アリーナ)
 名城信男 (六島) マーティン・カスティージョ (メキシコ)
- 8 W B C 世界フェザー級 (7 月 3 0 日 マリンメッセ福岡)
 ルディ・ロベス (メキシコ) 越本隆志 (F U K U O K A)
- 9 W B A 世界ライト・フライ級王座決定戦 (8 月 2 日 横浜アリーナ)
 亀田興毅 (協栄) ファン・ランダエタ (ベネズエラ)
- 10 W B C 世界スーパー・フライ級暫定王座決定戦 (9 月 1 8 日 パシフィコ横浜)
 クリスチャン・ミハレス (メキシコ) 川嶋勝重 (大橋)
- 11 W B C 世界ライト・フライ級暫定 (1 0 月 9 日 後樂園ホール)
 ワンディ・シンワンチャー (タイ) 嘉陽宗嗣 (白井具志堅)
- 12 W B A 世界ミニマム級暫定王座決定戦 (1 1 月 7 日 グランキューブ大阪)
 高山勝成 (グリーンツダ) カルロス・メロ (パナマ)
- 13 W B C 世界バンタム級 (1 1 月 1 3 日 日本武道館)
 長谷川穂積 (千里馬神戸) ヘナロ・ガルシア (メキシコ)
- 14 W B C 世界ミニマム級 (1 1 月 1 3 日 日本武道館)
 イーグル京和 (角海老宝石) ロレンソ・トレホ (メキシコ)

15WB A世界スーパー・フライ級（12月2日 大阪府立体育会館第1競技場）
名城信男（六島） エドゥアルド・ガルシア（メキシコ）

16WB A世界ライト・フライ級（12月20日 有明コロシアム）
亀田興毅（協栄） ファン・ランダエタ（ベネズエラ）

（2）東洋太平洋タイトルマッチ（22）

1フェザー級王座決定戦（1月21日 後楽園ホール）
榎 洋之（角海老宝石） デンタクシ・スングラーナイ（タイ）

2東洋（日本）スーパー・ウェルター級（1月24日 後楽園ホール）
クレイジー・キム（ヨネクラ） 川崎タツキ（草加有沢）

3バンタム級（2月5日 名古屋市国際会議場）
マルコム・ツニャカオ（比国） 大場浩平（スペースK）

4スーパー・フェザー級（2月5日 名古屋国際会議場）
ランディ・スイコ（比国） 杉田竜平（畑中）

5ミニマム級王座決定戦（4月3日 横浜文化体育館）
八重樫東（大橋） ウィラサック・チューワッタナ（タイ）

6ヘビー級（4月15日 後楽園ホール）
オケロ・ピーター（緑） ボブ・ミロビッチ（豪）

7ウェルター級（4月20日 後楽園ホール）
山口裕司（ヨネクラ） レブ・サンティリャン（比国）

8バンタム級（5月6日 後楽園ホール）
マルコム・ツニャカオ（比国） 木嶋安雄（角海老宝石）

9スーパー・フェザー級王座決定戦（5月20日 後楽園ホール）
本望信人（角海老宝石） ジムレックス・ハカ（比国）

10ライト・フライ級（6月12日 後楽園ホール）
嘉陽宗嗣（白井具志堅） ファーカノン・シンドンタイ（タイ）

- 11 東洋（日本）フライ級（6月27日 後楽園ホール）
内藤大助（宮田） 小松則幸（エディタウンゼント）
- 12 スーパー・ウェルター級（7月18日 後楽園ホール）
クレイジー・キム（ヨネクラ） デー・バイラ（韓国）
- 13 スーパー・ライト級（8月13日 クレオ大阪）
金正範（韓国） 山本大五郎（金沢）
- 14 スーパー・バンタム級（8月27日 大阪府立体育会館第2競技場）
ウェート・サックムアングレン（タイ） 坂本裕喜（進光）
- 15 フェザー級（9月16日 後楽園ホール）
榎洋之（角海老宝石） ナデル・フセイン（豪）
- 16 ミニマム級（9月18日 パシフィコ横浜）
八重樫東（大橋） リエンペット・タイヨン（タイ）
- 17 ウェルター級（9月18日 パシフィコ横浜）
丸元大成（グリーンツダ） 山口裕司（ヨネクラ）
- 18 スーパー・フェザー級（11月4日 後楽園ホール）
本望信人（角海老宝石） 村上潤二（八王子中屋）
- 19 ライト・ヘビー級王座決定戦（11月21日 後楽園ホール）
西澤ヨシノリ（ヨネクラ） マリカ・カトニヘレ（フィジー）
- 20 フライ級（12月10日 IMPホール）
内藤大助（宮田） 吉山博司（ヨシヤマ）
- 21 スーパー・フライ級王座決定戦（12月11日 後楽園ホール）
相澤国之（三迫） ペットクワンパイ・ソタンティップ（タイ）
- 22 クルーザー級（12月13日 後楽園ホール）
高橋良輔（金子） ナーミン・サバノビッチ（豪）

（3）日本タイトルマッチ（34）

1 スーパー・フェザー級王座決定戦（1月14日 後楽園ホール）

- 小堀佑介（角海老宝石） 真鍋圭太（石川）
- 2 日本（東洋）スーパー・ウェルター級（1月24日 後楽園ホール）
クレイジー・キム 川崎タツキ（草加有沢）
- 3 フェザー級王座決定戦（1月21日 後楽園ホール）
渡邊一久（角海老宝石） 阿部元一（ヨネクラ）
- 4 スーパー・バンタム級（2月11日 後楽園ホール）
福原力也（ワタナベ） 酒井俊光（三迫）
- 5 フライ級（2月13日 後楽園ホール）
内藤大助（宮田） 中広大悟（広島三栄）
- 6 ミドル級（2月18日 後楽園ホール）
板垣俊彦（木更津グリーンベイ） 鈴木哲也（進光）
- 7 バンタム級（2月20日 後楽園ホール）
サーシャ・バクティン（協栄） 木嶋安雄（角海老宝石）
- 8 スーパー・ライト級（3月4日 後楽園ホール）
木村登勇（横浜光） 長瀬慎弥（フラッシュ赤羽）
- 9 ミニマム級（3月18日 後楽園ホール）
高山勝成（グリーンツダ） 小熊坂諭（新日本木村）
- 10 ウェルター級（3月21日 後楽園ホール）
大曲輝斉（ヨネクラ） 竹中義則（尼崎亀谷）
- 11 ライト級（4月10日 後楽園ホール）
長嶋建吾（18古河） 伊藤俊介（金子）
- 12 フライ級王座決定戦（4月10日 後楽園ホール）
菊井徹平（花形） 相澤国之（三迫）
- 13 ライト・フライ級（4月16日 ツインメッセ静岡）
増田信晃（駿河） 戎岡淳一（明石）
- 14 スーパー・フェザー級（5月6日 後楽園ホール）
小堀佑介（角海老宝石） 藤田和典（倉敷守安）

- 15 フェザー級（5月20日 後楽園ホール）
渡邊一久（角海老宝石） 小林生人（横浜光）
- 16 バンタム級王座決定戦（6月11日 IMPホール）
池原信遂（大阪帝拳） 鳥海純（ワタナベ）
- 17 スーパー・バンタム級（6月17日 後楽園ホール）
山中大輔（白井具志堅） 福原力也（ワタナベ）
- 18 日本（東洋）フライ級（6月27日 後楽園ホール）
内藤大助（宮田） 小松則幸（エディタウンゼント）
- 19 ミドル級（7月1日 後楽園ホール）
板垣俊彦（木更津グリーンベイ） 中堀智永（本多）
- 20 スーパー・ライト級（8月5日 後楽園ホール）
木村登勇（横浜光） 木暮飛鴻（八王子中屋）
- 21 ミニマム級王座決定戦（8月12日 後楽園ホール）
三澤照夫（帝拳） 小熊坂諭（新日本木村）
- 22 スーパー・フライ級（8月14日 後楽園ホール）
菊井徹平（花形） 有永政幸（大橋）
- 23 バンタム級王座決定戦（8月27日 IMPホール）
三谷将之（高砂） 健文エスプロシボトーレス（大鵬）
- 24 ライト級（9月9日 後楽園ホール）
長嶋建吾（18古河） 久保田和樹（相模原ヨネクラ）
- 25 ウェルター級（9月19日 後楽園ホール）
大曲 輝斉（ヨネクラ） 新井恵一（高崎）
- 26 スーパー・バンタム級（10月9日 後楽園ホール）
山中大輔（白井具志堅） 木村章司（花形）
- 27 フェザー級（10月14日 後楽園ホール）
梅津宏治（ワタナベ） 渡邊一久（角海老宝石）

- 28 ライト・フライ級（10月15日 静岡 島田市中央体育館）
 増田 信晃（駿河） 大神淳二（関）
- 29 スーパー・フェザー級（11月4日 後楽園ホール）
 小堀佑介（角海老宝石） 三上朗央（帝拳）
- 30 スーパー・ライト級（11月18日 後楽園ホール）
 木村登勇（横浜光） 飯田幸司（ヨネクラ）
- 31 スーパー・ウェルター級王座決定戦（12月2日 大阪府立体育会館第1競技場）
 石田順裕（金沢） 松元慎介（進光）
- 32 ミドル級（12月2日 後楽園ホール）
 江口啓二（姫路木下） 板垣俊彦（木更津グリーンベイ）
- 33 バンタム級（12月10日 高砂市総合体育館）
 三谷将之（高砂） 川端賢樹（姫路木下）
- 34 ミニマム級王座決定戦（12月16日 後楽園ホール）
 三澤照夫（帝拳） 小熊坂諭（新日本木村）

〔別表2〕海外での世界タイトルマッチに役員派遣
 （内訳：WBC 6名，WBA 3名）

- 1 W B C フライ級ポンサクレック・クラティンデーンジム対ヒルベルト・ケブ・バアス戦(2月16日 タイ・チャイナート)に福地勇治ジャッジ。
- 2 W B A フェザー級クリス・ジョン対ファン・マヌエル・マルケス戦(3月4日 インドネシア・ボルネオ)に島川威ジャッジ。
- 3 W B C ヘビー級ハシム・ラクマン対ジェームス・トニー戦(3月18日 米 アトランティックシティ)に浦谷信彰ジャッジ。
- 4 W B C スーパー・フェザー級マルコ・アントニオ・バレラ対ロッキー・ファレス戦(5月20日 米 ロサンゼルス)に森田健ジャッジ。
- 5 W B A ヘビー級ニコライ・ワルーエフ対オーウェン・ベック(ジャマイカ)戦(6月3日 独 ハノーバー)に内田正一ジャッジ。
- 6 W B C フライ級ポンサクレック・ウォンジョンカム対エベラルド・モラレス戦(6月30日 タイ バンコク)に安河内剛スーパーバイザー、安部和夫、福地勇治両ジャッジ。
- 7 W B A バンタム級ウラジミール・シドレンコ対ポンサワン・クラティンデーンジム戦(7月15日 独 ハンブルグ)に島川威ジャッジ。
- 8 W B C ライト・フライ級暫定王座決定戦ファニト・ルピリアル対ワンディ・シンワンチャー戦(7月18日 タイ・バンコク)に金谷武明ジャッジ。
- 9 W B A フェザー級クリス・ジョン対レナン・アコスタ戦(9月9日 インドネシア ジャカルタ)に原田武夫ジャッジ。
- 10 W B A ミドル級ハビエル・カスティジェホ対マリアノ・カレーラ戦(12月2日 独 ベルリン)に島川威ジャッジ。
- 11 W B C ヘビー級オレグ・マスカエフ対オケロ・ピーター戦(12月10日 ロシア モスクワ)に森田健ジャッジ。